

A 雑草の種類と特徴

雑草の定義には「農耕地で人間の営んでいる経済行為に相反して、直接または間接に作物を害して生産を減少させ、農耕地の価値を低下させる作物以外の草本」（荒井 1951）また「望まれないところに生える植物」（アメリカ雑草学会 1945）等がある。

また、食用や観賞用に栽培すれば作物となり、有用な作物でも目的以外の場で生育すれば、雑草になる。

日本に生育する雑草は数百種あると言われているが、雑草は種によって発生、生育する環境条件が異なり、発生する場所・形態・時期・生活史等によって分類されることが多い。

（１）雑草の分類

i) 発生する場所による分類

水田雑草、畑雑草、草地雑草、芝雑草等と呼ばれる分類で、一般的に水田に発生する雑草は多湿条件を好み約200種、畑地に発生する雑草は乾燥条件を好み約300種と言われている。

また、このうち70～80種は水田、畑地に共通して発生する種である。実際に問題となる雑草は、水田、畑とも10～20種である。

ii) 形態による分類

雑草の形態的な特徴による分類で、イネ科雑草、広葉雑草に分類される。

イネ科雑草はイネのように細長い葉を持ち、葉脈が平行である。広葉雑草はイネ科以外で、葉の形が広く葉脈が網状である。さらに、カヤツリグサ科、キク科、アブラナ科等があり、最も基本的な植物の分類基準になっている。

iii) 生活史による分類

一年生雑草と多年生雑草に分類され、一年生雑草は一年間のある時期に枯れて種子だけを残し、毎年新しい種子から発生する雑草である。また、一年生雑草の中には、秋に発芽し、越冬後に開花・結実する越年性雑草も含まれる。多年生雑草は、地上部は枯れても根茎や球茎等の体の一部が残り、そこからまた栄養成長し、繁殖する特性をもつものである。また多年生雑草の多くは種子からも繁殖する。

iv) 発生（生育）時期による分類

夏雑草、冬雑草と呼ばれるように、発生（生育）する時期による分類である。夏雑草は、春先に発芽し夏に生育が旺盛で、秋に開花・結実する。冬雑草は、晩秋に発芽し、冬に生育が旺盛で春に開花・結実する。

また、一般的に種子や塊茎は成熟後しばらく休眠し、夏雑草では冬、冬雑草では夏をそれぞれ経過して、各雑草の好適条件（気温、水分等）になると発芽してくる。

v) その他での分類

生態的な分類とは異なり、雑草防除の面から特に防除が困難な雑草を、「難防除雑草」として区分する場合がある。水田で発生するものとしては、クログワイ、オモダカ、コウキヤガラ、シズイ等、畑地で発生するものとしては、スギナ、ツユクサ等がある。

（２）主要な雑草

i) 水田の雑草

水を張った水田に適応して発生する雑草で、主なものは次のようなものがある。

[一年生雑草]

イヌビエ、タイヌビエ、コナギ、タマガヤツリ、ミズアオイ、アゼナ、ミゾハコベ、ヒメミソハギ、タウコギ、タカサブロウ、アメリカアゼナ、アゼトウガラシ、アメリカセンダングサ、クサネム、イボクサ、ナガボノウルシ、アゼガヤ等

[多年生雑草]

イヌホタルイ、マツバイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヘラオモダカ、クログワイ、オモダカ、シズイ、コウキヤガラ、ヒルムシロ、キシウウスズメノヒエ、サヤヌカグサ等

ii) 畑・樹園地等の雑草

[一年生雑草]

イヌビエ、メヒシバ、オヒシバ、エノコログサ、スズメノカタビラ、スズメノテッポウ、カヤツリグサ、イヌタデ、オオイヌタデ、スベリヒユ、ハコベ、シロザ、ホソアオゲイトウ、イヌビユ、ナズナ、タネツケバナ、スカシタゴボウ、イヌガラシ、カラスノエンドウ、ホトケノザ、ヒメオドリコソウ、オランダミミナグサ、ヤエムグラ、ツユクサ、ハキダメギク、ノボロギク、オオイヌノフグリ、イチビ等

[多年生雑草]

チガヤ、イヌムギ、シバムギ、カタバミ、セイヨウタンポポ、ハルジオン、ヨモギ、オオバコ、シロツメクサ、コヒルガオ、エゾノギシギシ、ハマスゲ、スギナ等

iii) 近年問題となっている雑草

帰化アサガオ類（マルバアサガオ、アメリカアサガオ、マメアサガオ、ホシアサガオ、マルバルコウ）、ヒロハフウリンホオズキ、センナリホオズキ、イヌホオズキ、ノゲイトウ、マルバツユクサ、ワルナスビ、アレチウリ（※）、ナガエツルノゲイトウ（※）、ナルトサワギク（※）、オオキンケイギク（※）

※印は、特定外来生物